

科目名	外国語(英語)Ⅲ					
科目名(英)	Foreign language Ⅲ					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	マックス・ゴンザレス マリア・シワ	
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	2名とも学校にて英語教師として勤務	
対象学科・学年	看護科・3年					
授業概要	病院を受診・入院してきた患者への看護英会話(レベルアップ)2					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				1. Obstetrics & Gynecology における問診ができる。
	○	○				2. Childhood Health Problems Word を使って問診ができる。
	○	○				3. Vaccinations の英語がわかる。
	○	○				4. Surgery における患者への説明ができる。
	○	○				5. 手術名と人体内部の器官名の英語がわかる。
	○	○				6. 術後の状態を問診する英語がわかる。
	○	○				7. 薬の種類・用法などの英語がわかる。
	○	○				8. 心配事について尋ねることができる。
	○	○				9. 文化や宗教の違いについて尋ねることができる。
テキスト・教材 参考図書	こころの看護英語物語 Challenge Book					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	<時間:1・2>Obstetrics & Gynecologyについて				配布資料の事前通読
	2	<時間:3・4>Childhood Health Problems Wordについて				配布資料の事前通読
	3	<時間:5・6>Vaccinationsについて				配布資料の事前通読
	4	<時間:7・8>Surgeryについて				配布資料の事前通読
	5	<時間:9・10>手術名と人体内部の器官名について				配布資料の事前通読
	6	<時間:11・12>術後の状態について				配布資料の事前通読
	7	<時間:13・14>薬の種類・用法について				配布資料の事前通読
	8	<時間:15・16>心配事について				配布資料の事前通読
	9	<時間:17・18>文化や宗教の違いについて				配布資料の事前通読
	10	<時間:19・20>You're going to have a baby! (産婦人科)				配布資料の事前通読
	11	<時間:21・22>My baby has a fever.(小児科/予防接種)				配布資料の事前通読
	12	<時間:23・24>Your surgery will be tomorrow at 10 am.(手術)				配布資料の事前通読
	13	<時間:25・26>How are you feeling?(術後/日常看護)				配布資料の事前通読
	14	<時間:27・28>Are you worried about anything? (心のケア/文化や宗教の違い)				配布資料の事前通読
15	<時間:29・30>病院を受診・入院してきた患者への看護英語について				配布資料の事前通読	
評価方法	・口頭試問と筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	口頭試問・筆記試験	◎	◎			
評価割合						100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	社会福祉と社会保障Ⅱ						
科目名(英)	Social welfare and social security Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	浦川弘美 桂木瞳 後藤恋 石田奈苗 有田茉佑子 笹田幸秀 桑野愛理		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	全員病院にて社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	社会保障の理念と基本的な制度についての考え方の理解や、法律に基づく生活者の生活問題に対する社会福祉の方法と課題について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会福祉の目指すノーマライゼーションの考え方について説明できる。	
	○	○				社会福祉の法律と制度・対象・分野・援助方法について説明できる。	
	○	○				社会福祉・社会保障制度の概要と看護との関連性について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 社会福祉と社会保障						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	＜時間:1・2＞ 社会保障制度の概要				配布資料の事前通読	
	2	＜時間:3・4＞ 社会福祉制度とその主要内容				配布資料の事前通読	
	3	＜時間:5・6＞ 社会保険制度:医療保険制度				配布資料の事前通読	
	4	＜時間:7・8＞ 社会保険制度:年金保険制度				配布資料の事前通読	
	5	＜時間:9・10＞ 社会保険制度:労働者災害補償保険制度				配布資料の事前通読	
	6	＜時間:11・12＞ 社会保険制度:雇用保険制度				配布資料の事前通読	
	7	＜時間:13・14＞ 社会保険制度:社会福祉分野のサービスと行政				配布資料の事前通読	
	8	＜時間:15＞ 生活と福祉				配布資料の事前通読	
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	関係法規						
科目名(英)	Related laws						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	増満 誠		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学にて講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	看護師が専門職業人としてその任務を果すためには、わが国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解する必要がある。そこで保健師助産師看護師法をはじめ、衛生法規や社会保障に関する法規、労働関係法規等を重点的に学習させ、職務を正しく遂行するための基礎的知識を身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 法の概念、厚生行政のしくみについて説明できる。	
	○	○				2. 保健師助産師看護師法、医療法等について説明できる。	
	○	○				3. 医療法、健康増進法、母体保護法、母子保健法について説明できる。	
	○	○				4. 精神保健および精神障害者福祉に関する法律について説明できる。	
	○	○				5. 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法等について説明できる。	
	○	○				6. 環境衛生関係の法律、薬事法、大麻取締法について説明できる。	
	○	○				7. 福祉関係法律(児童福祉法、生活保護法、障害者自立支援法)について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 関係法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間1・2> 法の概念、厚生行政のしくみ				講師配布資料	
	2	<時間3・4・5> 医療法、健康増進法、母体保護法、母子保健法、精神保健および精神障害者福祉に関する法律				講師配布資料	
	3	<時間6・7・8> 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法等				講師配布資料	
	4	<時間9・10> 環境衛生関係の法律、薬事法、大麻取締法				講師配布資料	
	5	<時間11・12・13> 福祉関係法律(児童福祉法、生活保護法、障害者自立支援法)				講師配布資料	
	6	<時間14・15> 保健師助産師看護師法、医療法等				講師配布資料	
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術Ⅷ								
科目名(英)	Basic nursing technologyⅧ								
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	河合愛実 和田花穂里				
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	2名とも病院にて臨床心理士として勤務				
対象学科・学年	看護科・3年								
授業概要	看護の基本となる技術における<人間関係成立の技術>で1年次の人間関係論を踏まえ、対象の把握および基本的医学知識・技術の習得とする。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				看護におけるカウンセリングの意義説明できる。			
	○	○				自己理解について説明できる。			
	○	○				交流分析理論(エゴグラム)を説明できる。			
	○	○				心理療法(コラージュ)の体験を通して、自分のところに起こってきたことを大切にしたり、自分自身の感情に気づくことができる。			
	○	○				自分の特徴(関心・態度、考え方、行動など)を把握し、自己理解を深め、周囲と関わる際の態度について考えることができる。			
	○	○				ストレスについて理解を深める。ストレスにどのように気づくか、どのように対処するか説明できる。			
	○	○				各回の授業での疑問点・不確かな点を解決することができる。			
テキスト・教材 参考図書	医歯薬出版株式会社 ケアの質を高める看護カウンセリング 臨床心理士大辞典 配布資料								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	<時間:1・2>看護におけるカウンセリングーオリエンテーションー					講師配布資料		
	2	<時間:3・4>看護におけるカウンセリングの発展					講師配布資料		
	3	<時間:5・6>カウンセリングと人間観ー話を聞くということー					講師配布資料		
	4	<時間:7・8>カウンセリングと人間観ー人を理解するというところー					講師配布資料		
	5	<時間:9・10>ストレスマネジメント					講師配布資料		
	6	<時間:11・12>心理療法体験ーDESC法ー					講師配布資料		
	7	<時間:13・14>アサーション					講師配布資料		
	8	<時間:15・16>心理療法体験ーコラージュー					講師配布資料		
	9	<時間:17・18>臨床心理士に関する基礎知識					講師配布資料		
	10	<時間:19・20>自己概念と経験・出会いの関係性					講師配布資料		
	11	<時間:21・22>ジョハリの窓とリフレーミング					講師配布資料		
	12	<時間:23・24>言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション					講師配布資料		
	13	<時間:25・26>コミュニケーションとミス・コミュニケーション					講師配布資料		
	14	<時間:27・28>感情との付き合い方					講師配布資料		
	15	<時間:29・30>高齢者と心理臨床					講師配布資料		
評価方法	・2名の講師による筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	筆記試験(和田)	◎	◎				50%		
	筆記試験(河合)	◎	◎				50%		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。								

科目名	精神看護学方法Ⅱ						
科目名(英)	Mental nursing method Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	45時間	担当者	古賀明弘 上田朋紀		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	2名とも病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	精神看護援助を行う上で修得すべき知識として、精神科看護の対象・目的および看護師の役割、精神科看護の特性と基本的援助方法の理解、患者-看護師関係の発展過程の理解、主な精神症状と問題行動への看護、各種療法における看護の役割・援助、社会復帰に向けての援助を学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 精神科看護の対象・目的・方法と看護の役割について説明できる。	
	○	○				2. 患者-看護師関係の発展過程について説明できる。	
	○	○				3. 各精神症状・問題行動および治療に対する看護援助を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・ヌーベルヒロカワ 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 ・東京アカデミー オープンセサミシリーズ 看護学3						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	＜時間1＞精神臨床看護の考え方-精神科看護師の役割(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	2	＜時間2＞患者-看護師関係～人間関係論(ペロウトラベルビー)～(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	3	＜時間3＞患者-看護師関係～プロセスレコード～(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	4	＜時間4＞セルフケア理論～オレム/オレム-アンダーウッド～(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	5	＜時間5・6＞精神看護援助の基本と技術-セルフケアの援助(日常生活援助、食事・水分摂取・服薬・呼吸)(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	6	＜時間7・8＞精神看護援助の基本と技術-セルフケアの援助(排泄、清潔、活動・休息、対人関係、安全)(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	7	＜時間9・10＞精神看護の看護過程(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	8	＜時間11＞生きる力と強さ-ストレングス、リカバリ、エンパワメント(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	9	＜時間12＞入院から社会生活の継続までの看護-精神疾患患者の理解(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	10	＜時間13＞入院から社会生活の継続までの看護-安全管理(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	11	＜時間14・15・16＞入院から社会生活の継続までの看護-急性期の看護(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	12	＜時間17・18・19＞入院から社会生活の継続までの看護-急性期から回復期への移行期の看護(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	13	＜時間20・21・22＞入院から社会生活の継続までの看護-慢性期の看護(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	14	＜時間23・24・25＞入院から社会生活の継続までの看護-退院後の生活支援(古賀)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	15	＜時間26・27・28・29＞症状アセスメントとケアプラン～幻覚妄想の患者～(上田)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	16	＜時間30・31・32・33＞症状アセスメントとケアプラン～抑うつ・躁状態の患者～(上田)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	17	＜時間34・35＞症状アセスメントとケアプラン～不眠・不安の患者～(上田)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	18	＜時間36・37・38・39＞症状アセスメントとケアプラン～強迫行為・摂食行動障害の患者～(上田)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	19	＜時間40・41・42・43＞症状アセスメントとケアプラン～依存・操作する患者～(上田)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	20	＜時間44・45＞症状アセスメントとケアプラン～パニック障害の患者～(上田)				テキスト通読 講師配布資料通読	
評価方法	・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(古賀)	◎	◎				50%
	筆記試験(上田)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学実習Ⅲ						
科目名(英)	Adult nursing practicumⅢ						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 西島明日香 山本勇也		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	全員病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	成人期にある対象を理解し、様々な健康状態にある対象に応じた看護を実践するために必要な基礎的技術・知識・態度を養う。また、生体機能の順調な回復を促がし、身体の回復状態に合わせてセルフケア再獲得のための援助を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 急性期を脱した身体状態をふまえ、回復に向けた援助が理解できる。	
	○	○	△			2. セルフケアが障害されている部分に対する援助が実施できる。	
	○	○	○			3. 残存機能を考慮し、身体の回復状況に合わせたセルフケア再獲得への援助が実施できる。	
	○	○				4. 回復への期待と不安を持つ対象および家族への心理的支援が実施できる。	
	○	○				5. 生活の再編成にむけて、対象に必要な社会資源を考えることができる。	
	○	○				6. 救急医療のシステムを説明できる。	
	○	○				7. 救急患者の身体的、心理的、社会的な問題を説明できる。	
	○	○				8. 救急看護の役割機能を説明できる。	
	○	○				9. 救急看護における基本的な看護の実際を見学する。	
	○	○				10. ICU・HCUにおける患者の生活環境について説明できる。	
	○	○				11. 生命危機状態にある患者への看護援助について説明できる。	
	○	○				12. 生命危機状態にある患者と治療・看護処置との関係が説明できる。	
	○	○				13. 生命危機状態にある患者を取り巻く専門職間の協力・連携を説明できる。	
			○	○		14. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	成人看護に関するテキスト、講義資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	身体情報のモニタリング			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		障害の拡大予防と機能回復の促進			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		セルフケア行動の判断と再獲得に向けた援助			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		障害受容の諸段階における心理的適応の援助			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		セルフケア再獲得の段階における治療や検査時の看護			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		セルフケア再獲得の段階にある対象を取り巻く医療チーム			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		保健医療福祉のなかで看護の果す役割			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		看護過程の展開			成人看護学に必要な資料の振り返り		
	救 急 外 来	救急患者の搬送・初療			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		救急患者のアセスメント、救急看護の役割機能			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		救急患者・家族への援助			成人看護学に必要な資料の振り返り		
	I C U / H C U	ICU・HCUにおける物理的・人的・細菌学的環境			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		生命危機状態にある患者への看護			成人看護学に必要な資料の振り返り		
生命危機状態にある患者のアセスメント			成人看護学に必要な資料の振り返り				
他職種との協力・連携			成人看護学に必要な資料の振り返り				
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
態度				◎	◎	30%	
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学実習Ⅱ						
科目名(英)	Gerontological nursing Practice Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 田中美香		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	全員病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	高齢者と健康障害をもつ高齢者の特徴および高齢社会における看護の果たす役割を理解し、老年看護に必要な知識・技術・態度を習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能と生活行動について説明できる。	
	○	○				2. さまざまな健康状態にある高齢者が、その人らしく望ましい生活を送るための援助について説明できる。	
	○	○	○			3. さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)に対する強みを活かした看護の実施できる。	
	○	○				4. さまざまな健康状態にある高齢者の、家族支援や多職種連携の必要性、エンド・オブ・ライフ・ケアについて説明できる。	
			○			5. 高齢者の意思・尊厳を尊重する倫理的態度で実習を行い、自己の老年看護観を述べる事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学</li> <li>・老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義資料、その他老年看護や病態に関する資料、配布資料</li> </ul>						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週間	さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能と生活行動の分析				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		さまざまな健康状態にある高齢者の、その人らしく望ましい生活				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		さまざまな健康状態にある高齢者が、その人らしく望ましい生活を送るための援助				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)に対する強みを活かした看護の実施				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		さまざまな健康状態にある高齢者の、エンド・オブ・ライフ・ケア				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		さまざまな健康状態にある高齢者の、家族に必要な支援				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		さまざまな健康状態にある高齢者の、望む生活に向けた多職種連携・チームアプローチ				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		老年看護の役割と、自己の老年看護観				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習記録用紙、発言・行動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学実習						
科目名(英)	Maternity nursing practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 浅見詩織		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	実務家教員担当科目	全員病院にて助産師として勤務		
対象学科・学年	看護科 3年						
授業概要	母性看護学実習では、周産期における対象者や家族に必要な看護を実践できる基礎的能力を養うとともに、母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の諸機関との関係について理解を深め、保健指導の必要性を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1) 妊娠または産褥経過に伴う生理的・身体的変化・心理社会的変化の特徴を理解することが出来る	
	○	○				2) 妊婦及び胎児または褥婦の状態や日常生活に伴う看護・保健指導を理解することが出来る	
	○	○				3) 分娩経過に伴う産婦と胎児の健康状態、生理的・身体的変化、心理・社会的変化の特徴を理解することが出来る	
	○	○				4) 新生児の子宮外適応現象および生理的・身体的変化の特徴・看護を理解することが出来る	
	○	○				5) 妊娠の経過や、妊娠期の日常生活に伴う看護を理解することが出来る【外来実習】	
	○	○	○	○		6) 対象者の援助に必要な看護技術を習得し、安全・安楽に配慮し実施することができる	
	○	○				7) 母性看護および対象者のセルフケア能力を高めるための保健指導を理解することが出来る	
	○	○				8) 母子および家族を取り巻くサポート体制を整えるための保健医療福祉の連携と継続看護の必要性を理解することが出来る	
	○	○				9) 継続看護の必要性と母子保健医療チームの看護者の役割を理解することが出来る【外来実習】	
○	○				10) 生命の尊厳や一人の女性が母親としての役割を獲得していく過程に関わることにより、母性看護の意義に対する考えを述べる事が出来る		
テキスト・教材 参考図書	母性看護学の講義資料 その他、母性に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週 間	妊娠期のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産褥期のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産婦のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		新生児のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		セルフケア能力を促進させる看護実践及び保健指導 (育児技術・分娩準備・日常生活・母子保健サービスなど)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		セルフケア能力を促進させる看護実践及び保健指導 (家族役割調整・育児技術・分娩準備・日常生活・母子保健サービスなど)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		母子保健・子育て支援に関する施策の活用				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		他職種・他機関との連携 (社会福祉士・薬剤師・医師・栄養士・小児科・市役所など)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		病院から地域への継続看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		周産期医療システム				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産婦人科外来実習(妊娠の経過や、妊娠期の日常生活に伴う看護)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産婦人科外来実習(継続看護の必要性と母子保健医療チームの看護者の役割)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		母性看護の意義(生命の尊厳・母親役割獲得過程・愛着形成・母子相互作用・母子の早期接触不妊外来)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価者: 指導教員と臨床指導者。</li> <li>・評価基準: 5段階評価 【認知・情意】(70%) 【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。</li> <li>・評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
態度				◎		30%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						



科目名	精神看護学実習						
科目名(英)	Psychiatric nursing practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 上田朋紀		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	全員病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	精神障害を持つ対象の理解を深め、対象を取り巻く保健医療福祉チームの役割を学ぶ機会とした。 精神障害を持つ対象との人間関係の構築のための治療的コミュニケーションを学び、また、対象との相互関係発展のため関係の振り返りが重要であることを理解し、振り返りにより対象理解・自己理解・相互関係の分析を学ぶ加えて、安全安楽な援助技術実施の機会とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 精神障害者及び家族への理解について説明できる。	
	○	○	○			2. 対象の発達段階、健康障害、ニードやセルフケア、健康な側面を分析しながら看護援助の実践ができる。	
	○	○				3. 患者—看護師関係の発展過程を理解し治療的かかわりの技法について説明できる。	
	○	○				4. 精神医療における看護の役割と、社会復帰に向けた保健医療福祉チームの連携の重要性を説明できる。	
			○	○		5. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	精神看護学の講義資料、学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	プロセスレコードを用いた対象との相互関係や関係発展過程の分析			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		対象の病態・生活・人間像の情報収集の実施と記述			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		情報の分析から問題の成り行きと看護の方向性の記述			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		看護上の問題の判断と記述			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		問題の優先順位の判断と記述			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		看護計画の立案における目標の設定と具体策の記述			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		立案した看護計画に基づく援助の実施と評価の記述			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		精神症状の理解および精神科病棟管理、治療、検査等の把握			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		精神科デイケア、外来の見学			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
		精神科訪問看護の見学			精神看護学実習に必要な資料の振り返り		
評価方法	・評価者: 指導教員と臨床指導者。 ・評価基準: 5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	在宅看護論方法Ⅱ							
科目名(英)	Home nursing theory Ⅱ							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角美緒			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務			
対象学科・学年	看護科・3年							
授業概要	在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、在宅で生活する疾病や障害をもち療養する人、生活自立が困難で支援を必要とする人とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ。							
授業形式	講義： ○	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				在宅における医療ケアの意義と目的(対象の特徴と自立支援)について説明できる。		
	○	○				在宅における医療ケアにおける観察とアセスメント(状態に合わせた対応、調整)について説明できる。		
	○	○				トラブルや合併症の予防と対応を理解し、リスクマネジメントの重要性について説明できる。		
	○	○				在宅療養者の家族のセルフマネジメント力の維持・向上のための支援について説明できる。		
	○	○				在宅における医療ケアにおける多職種連携、社会資源の活用・調整について説明できる。		
			○			呼吸のアセスメントに基づいた適切で安全かつ有効な排痰ケアが実施できる。		
		○			在宅酸素療法の管理方法について理解し、安全に実施できる。			
テキスト・教材 参考図書	在宅看護に関する資料 テキスト全て							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	<時間1>在宅看護の実際「医療管理技術」_「医療管理技術」在宅看護における対象者の把握				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	2	<時間2・3>在宅看護の実際_療養生活に応じた医療管理技術				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	3	<時間4・5>在宅看護の実際_医療依存度の高い在宅療養者と家族に必要なアセスメント				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	4	<時間6・7>在宅看護の実際_看護の基本原則(安全・安楽・自立・個別性)をふまえた技術				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	5	<時間8・9>在宅看護の実際_医療技術における社会資源の活用(人・物・サービス、医療保険、介護保険)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	6	<時間10・11>在宅看護の実際_在宅看護における医療管理技術の教育(指導)・相談技術				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	7	<時間12・13>在宅看護の実際_医療管理を行いながら生活する在宅療養者と家族への配慮				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	8	<時間14・15・16>在宅看護の実際_【発表】在宅酸素療法、吸引(気管・口腔・鼻腔)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	9	<時間17・18・19>在宅看護の実際_【発表】人工呼吸器、膀胱内留置カテーテル法				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	10	<時間20・21>在宅看護の実際_【発表】在宅経管栄養法、褥瘡管理				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	11	<時間22>在宅看護の実際_【発表】中心静脈栄養、ストーマ /在宅酸素療法について(講義)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	12	<時間23・24・25>学内演習(在宅酸素療法)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	13	<時間26・27・28>学内演習(経鼻経管栄養の挿入・吸引)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
14	<時間29・30>まとめ・振り返り				テキスト事前通読 適宜課題実施			
評価方法	・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記試験	◎	◎				100%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	在宅看護論方法Ⅲ							
科目名(英)	Home nursing theory Ⅲ							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角美緒			
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務			
対象学科・学年	看護科・3年							
授業概要	ペーパーパシエントによる在宅看護過程の展開を学ぶ。終末期の成人期療養者の事例を通して、看護上の問題を中心として、在宅における予防的かわり、症状アセスメントの方法について学ぶ。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○		○		1. 在宅看護介入時期別の特徴について説明できる。		
	○	○		○		2. 紙上事例を通して終末期(成人期)の療養者の看護過程を展開できる。		
	○	○		○		3. 様々な事例から、療養者と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際について説明できる。		
	○	○		○		4. 様々な事例から、療養者とその家族の生活上の課題を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	系統別看護学講座 統合分野 在宅看護論							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	<時間1・2>在宅看護展開のポイント 在宅看護過程				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	2	<時間3・4>在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__終末期事例(情報の理解、クラスタリング)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	3	<時間5・6>在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__関連図				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	4	<時間7・8>在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__情報の分析・解釈				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	5	<時間9・10>在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__看護問題・優先順位、看護目標				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	6	<時間11>在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__看護計画				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	7	<時間12・13>在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__事例に対する看護過程の展開(基本情報・常在条件・基本的看護の構成要素・病理的状态)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	8	<時間14・15>在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__事例に対する看護過程の展開(社会資源(介護保険・医療保険など))				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	9	<時間16・17>在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__事例に対する看護過程の展開(常在条件・基本的看護の構成要素・病理的状态の関連)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	10	<時間18・19>在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__事例に対する看護過程の展開(看護問題;看護診断;看護目標;看護計画)				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	11	<時間20・21>在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__【全体共有】脳梗塞、パーキンソン				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	12	<時間22・23>在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__【全体共有】認知症、小児				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	13	<時間24・25>在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__【全体共有】ALS,COPD				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	14	<時間26・27>在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__【全体共有】独居、統合失調症				テキスト事前通読 適宜課題実施		
	15	<時間28・29・30>まとめ・振り返り				テキスト事前通読 適宜課題実施		
評価方法	・グループワークにて作成した看護過程のレポート(30% *グループワーク中の態度含)、講義内容の筆記試験(70%)、合計100%にて評価する。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	レポート	◎	◎		◎		30%	
	筆記試験	◎	◎				70%	
履修上の注意	出席時間が所定の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	在宅看護論実習						
科目名(英)	Home nursing Practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 角美緒		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院(施設)にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	地域や在宅で療養する対象を知るため、概論・方法論で学んだ知識を活用し、医療・保健・福祉の視点から学べるよう、さまざまな場所(市町村・ステーション・外来など)で実習をさせる。実習形態は在宅実習3週間のうち2週間は訪問看護ステーション、1週間は市町村保健センター・社会福祉協議会・在宅介護支援センターなどで実習する。さらに、1日外来実習(透析センター・ストーマ外来)にて実習し、在宅療養者に対する外来での関わりや看護も学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 地域保健福祉活動を実践している機関の機能と役割を説明することができる。	
	○	○	△			2. 在宅で療養する人・生活自立が困難な人とその家族の生活上の問題を理解し、療養の各段階における看護援助方法(予防的かかわり、自立支援、終末期看護など)を説明することができる。	
				○	○	3. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	在宅に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1 週間	個人および・家族・集団に対する健康上の問題にかかわる専門機関の機能・役割			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
		専門職の役割(地域保健福祉活動を通して)			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
		地域における関係機関(病院・福祉事務所など)および他職種との連携・協働			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
		在宅療養者とその家族を「生活者」としてとらえる			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
	2 週間	在宅療養者とその家族の療養上の問題			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
		疾患や障害が対象に与える影響と予防的かかわり			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
		訪問看護援助方法			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
		社会資源の活用方法とケアマネジメントの重要性			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
		他職種との連携・協働			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り		
環境	評価者:臨床指導者 評価割合:訪問看護ステーション(70%)、市町村(30%) 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)、【態度】(30%) 100点満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・行動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意							
出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							